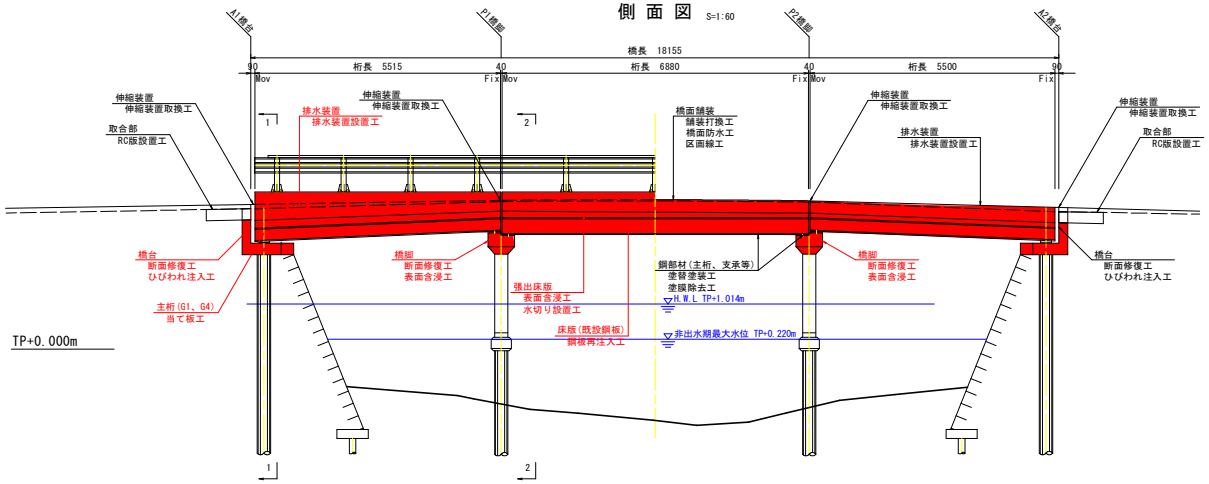
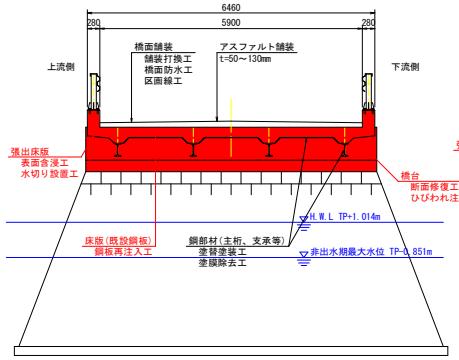
補 修 一 般 図

側 面 図 S=1:60

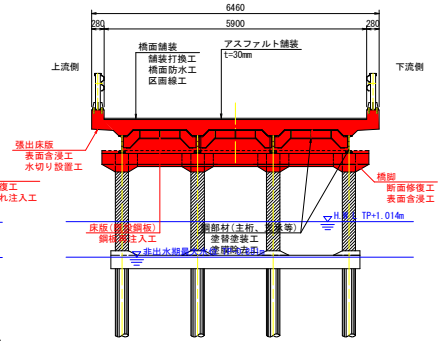


断 面 図 S=1:60

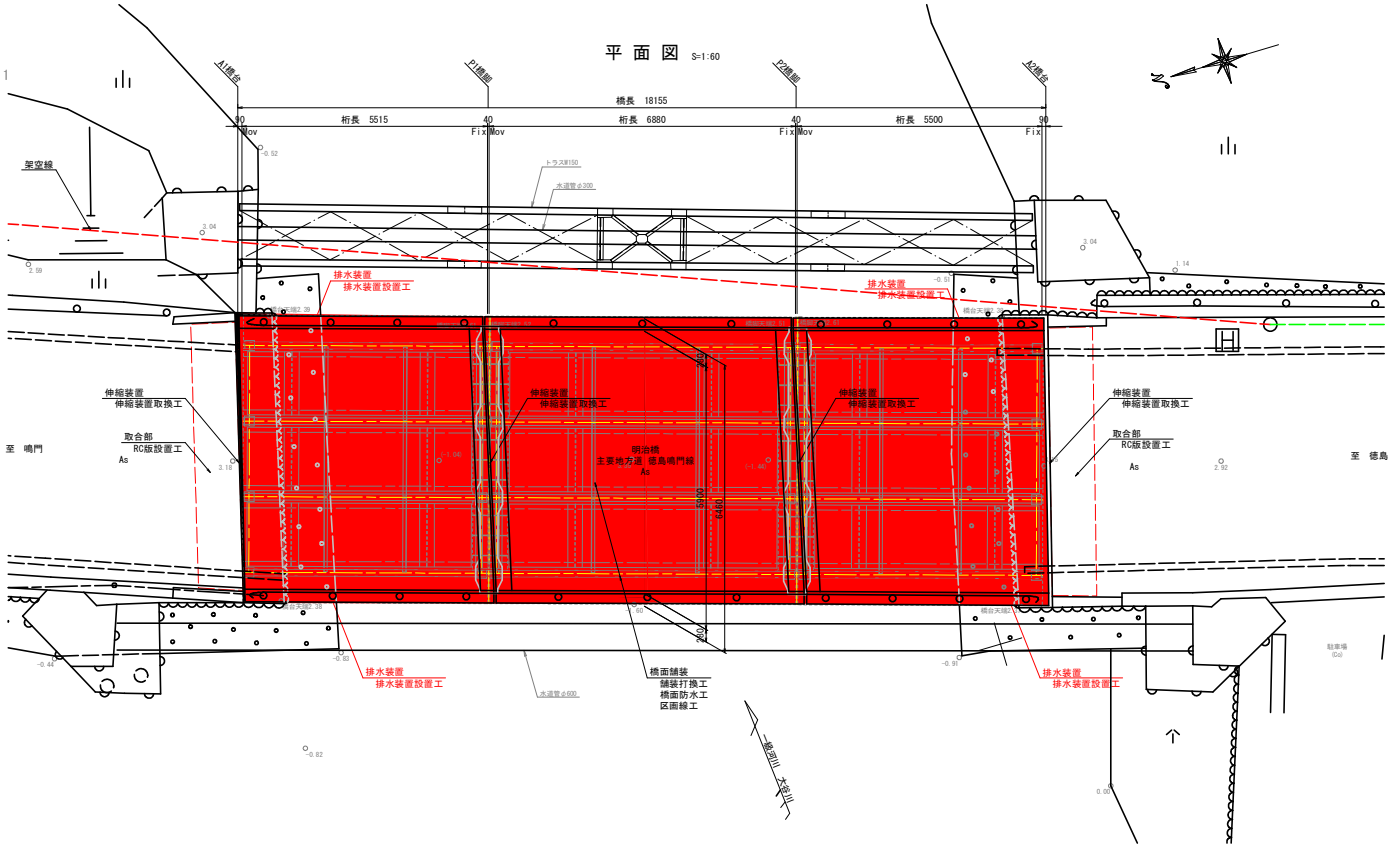
1 - 1 断 面
橋台部



2 - 2 断 面
橋脚部



平 面 図 S=1:60



補修工法一覧

損傷部位	劣化状況	補修工法	備考
主桁、横桁	防食機能の劣化、腐食 部材断面減少	塗替塗装工、塗膜除去工 当て板工法	Rc-III塗装系
床版既設鋼板	防食機能の劣化、腐食 うき	塗替塗装工、塗膜除去工 鋼板再注入工	Rc-III塗装系
支承	腐食、防食機能の劣化	塗替塗装工、塗膜除去工	Rc-III塗装系
張出床版	ひびわれ、うき、剥離（保護材） 中性化	保護材撤去 表面含浸工、水切り設置工	シラン系表面含浸材
橋台	うき、ひびわれ、剥離 ひびわれ（W≧0.2mm）	断面修復工 ひびわれ注入工	左官工法 低圧注入工法
橋脚	鉄筋露出、うき 中性化	断面修復工 表面含浸工	左官工法 シラン系表面含浸材
橋面舗装	ひびわれ、段差	舗装打換工、区画線工 橋面防水工	 塗膜防水層
排水装置	腐食、排水管消失	排水装置設置工	
伸縮装置	目詰まり 伸縮装置未設置	伸縮装置取替工 RC版設置工	埋設ジョイント 取合部

橋梁諸元

項目		内容
橋名		明治橋
路線名		主要地方道 徳島鳴門線（徳島県道39号）
路下条件		一級河川 大谷川
径間数		3径間
構造形式	上部工形式	I形鋼橋
	下部工形式	枕式橋台
		4柱式ラーメン橋脚
	基礎工形式	鉄筋コンクリート杭
等級（活荷重）		T-9tf ※設計当時
橋長		18.155m
桁長		5.515+6.880+5.500m
全幅員		6.460m
有効幅員		5.850m
斜角		90° 00′ 00″
架設年度		1951年（昭和26年）
適用示方書		鋼道路橋設計示方書案（昭和14年）

河川条件

河 川 名	一級河川 吉野川水系 大谷川
計画高水流量	Q=30.000m3/s（計画橋梁地点）
計画高水位(HWL)	TP+1.014m（計画橋梁地点）
非出水期最大流量	Q=20.000m3/s（施工期間 11～5月）
非出水期最大水位	TP-0.220m（計画橋梁地点）

実施設計図面

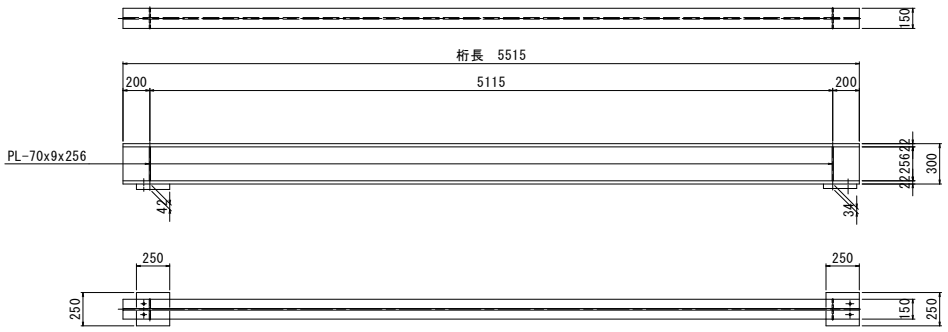
工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	補修一般図		
縮尺	S＝1：60	図面番号	1 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

塗替え塗装工詳細図(1/4)

※塗替え塗装工は、不施工とする。

A1-P1径間

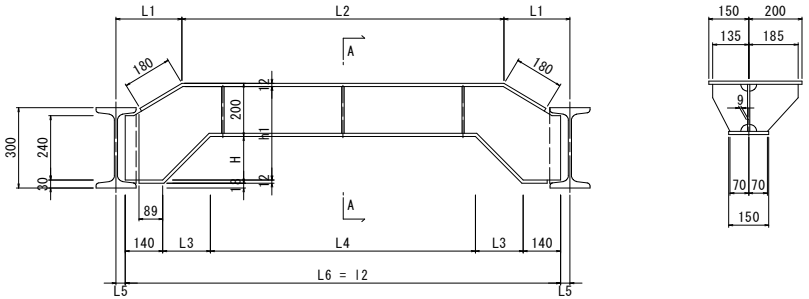
主桁・支承構造図 S=1:20



1本当り (1径間当たり 4本)

1-主桁 I 300x150x11.5x22x5515 (SS400)
4-STIF PL 70x 9x256
1-SOLE PL 250x42x250
1-SOLE PL 250x34x250

端横桁構造図 S=1:10



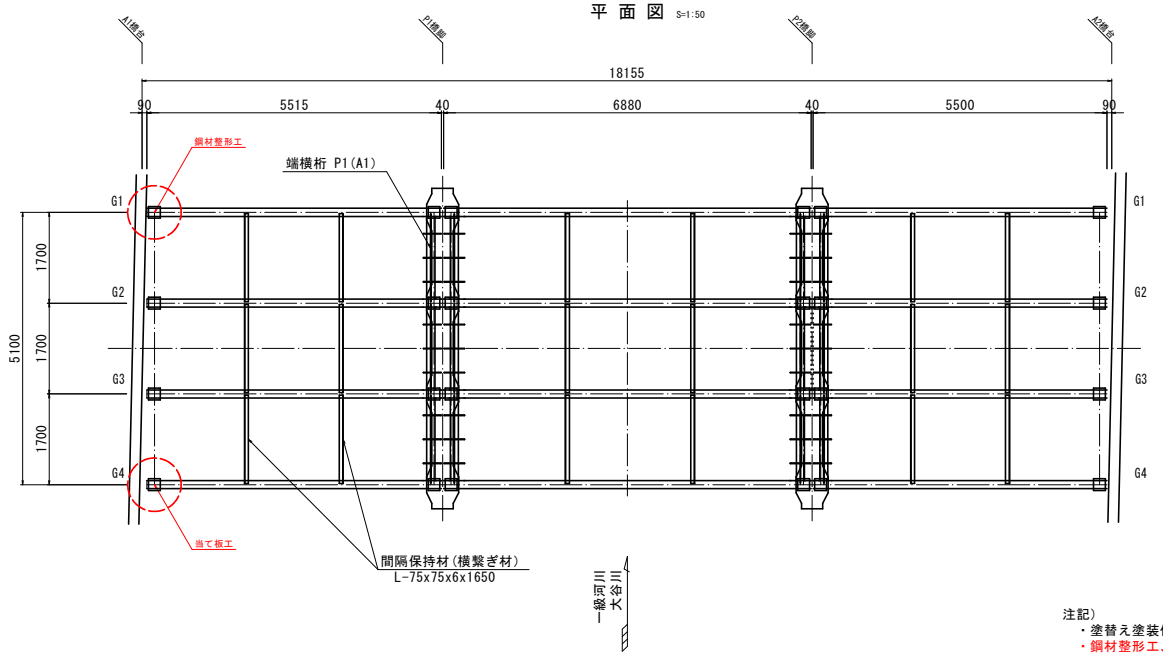
部材番号	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6	H	h 1	l 1	l 2	l 3
⑩	250	1200	174	1002	35	1630	174	350	1560	1630	1654
⑪	230	1240	184	1012	20	1660	184	360	1600	1660	1692
⑫	242.5	1215	184	947	52.5	1595	184	360	1575	1595	1627

表中のl1は上フランジ長、l3は下フランジ長を示す

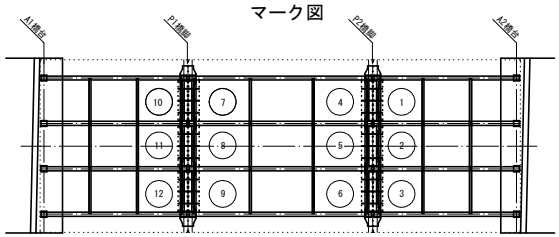
1基当り (1支承線当たり 3基)

3-RIB PL 135 x 9 x 176 NET=83
3-RIB PL 185 x 9 x 176 NET=78
1-FLG PL 350 x 12 x l1
1-WEB PL h1 x 9 x l2 NET=60
1-FLG PL 150 x 12 x l3

平 面 図 S=1:50



マーク図



注記)

・塗替え塗装仕様、塗膜剥離剤の規格については、「塗替え塗装工詳細図(4／4)」を参照すること。
・鋼材整形工、当て板工については、「鋼材補修図」を参照すること。

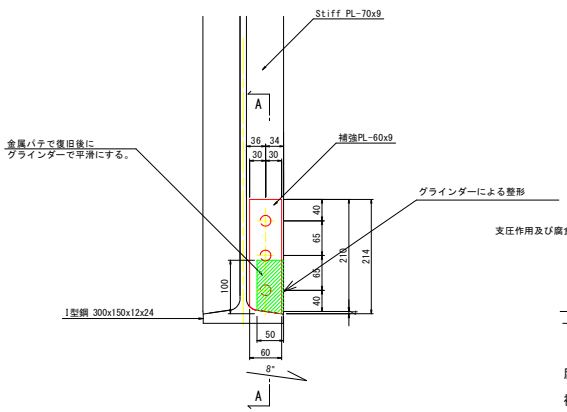
実施設計図面

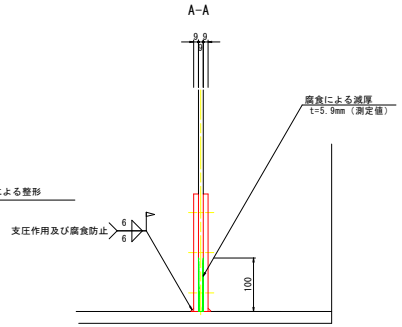
工事名	R７徳土 徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	塗替え塗装工詳細図(1/4)		
縮尺	図 示	図面番号	2 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

明治橋　補修要領図 S=1:50

当て板工詳細図

A1-P1径間 G4（下流側）垂直補強材





腐食による減少断面量　A=(9-5.9)x50 = 155 mm2

補強断面　60x9x2 = 1080 mm2 ＞ 155 mm2

ボルト数　N = 70x9x140/(39000x2)= 1.13 本＜ 3本使用

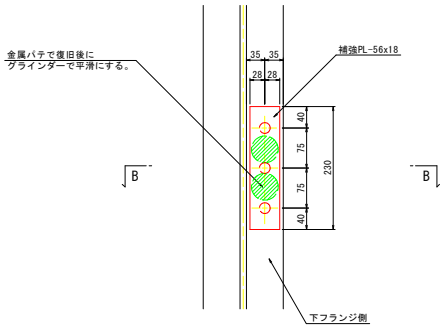
作業手順　　当て板工(A1-P1径間 G4 下流側)

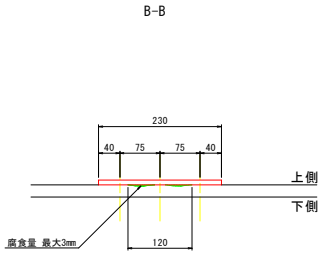
1. チョークにより概略掛書く。
2. 金属ブラシ（デイスクサンダー等）でケレン及び整形を行う。
3. 削孔位置をポンチでマークする。
4. ボルト孔明け（24.5φ）を行う。N = 3 孔
5. 金属パテ(デブコン相当) 塗布しグラインダー等で平滑に仕上げる。
6. 有機ジンクリッチペイントを塗布する。
7. 補強板取付。仮止めし現場溶接を完了後HTBで締付ける。
8. 塗装を行う。

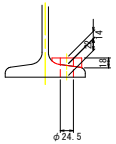
数　量

- 鋼材
  - 2-PL 60x9x214(SM400A)　W = 1.81 Kg
  - 3-HTB M20x60(F10T)　W = 1.16 Kg
- 現場溶接長　L= 1.0x0.06x2 =0.12m
- 金属パテ　A = 0.1x0.05x2 = 0.010 m2
- 現場削孔　N= 3 孔（24.5φ）、t= 9mm
- 鋼材整形工　L = 0.10 m

A1-P1径間 G4（上流側）下フランジ







腐食による減少断面量　A=60x3 = 180 mm2

補強断面　56x14 = 784 mm2 ＞ 180 mm2

ボルト数　N = 56x14x140/39000= 2.81 本＜3本使用

作業手順　　当て板工(A1-P1径間 G4（上流側）

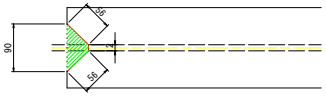
1. チョークにより概略掛書く。
2. 金属ブラシ（デイスクサンダー等）でケレンを行う。
3. 削孔位置をポンチでマークする。
4. ボルト孔明け（24.5φ）を行う。N = 3 孔
5. 金属パテ(デブコン相当) 塗布しグラインダー等で平滑に仕上げる。
6. 有機ジンクリッチペイントを塗布する。
7. 補強板取付。HTBで締付ける。
8. 塗装を行う。

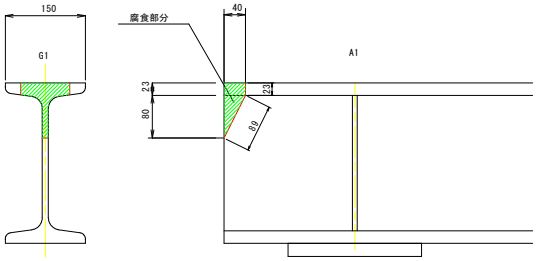
数　量

- 鋼材
  - 1-PL 56x18x230(SS400)　W = 1.82 Kg
  - 3-HTB M20x75(F10T)　W = 1.31 Kg
- 金属パテ　A = 0.06x0.12 = 0.0072 m2
- 現場削孔　N= 3 孔（24.5φ）、t=22mm

鋼材整形工

A1-P1径間 G1 上フランジ、ウェブ





作業手順　　鋼材整形工

1. 金属ブラシ（デイスクサンダー等）で端面の整形を行う。

数　量

- 鋼材整形工　L = 0.215 m

注記）

・工事着手前に現地計測を行い、既設構造寸法を再確認すること。

・部材取付箇所の鋼材断面減少が進行している場合は、ボルト取付位置について工事発注者と協議を行い決定すること。

実施設計図面

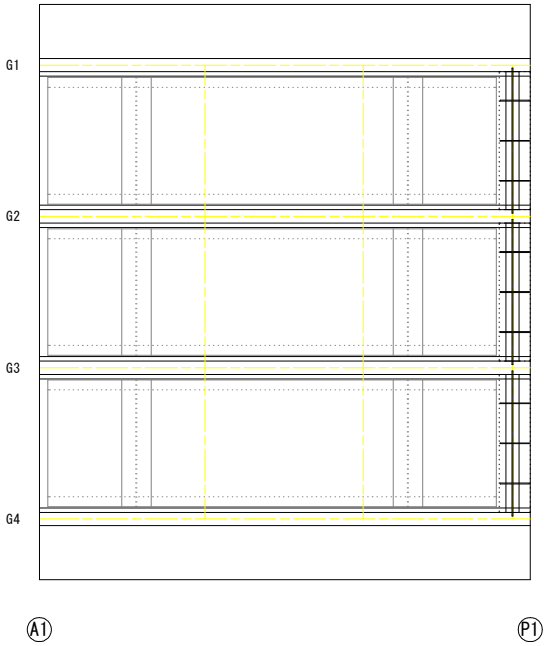
工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	鋼材補修図		
縮尺	S=1：5	図面番号	3 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

コンクリート部材補修図（1/4） S=1:30

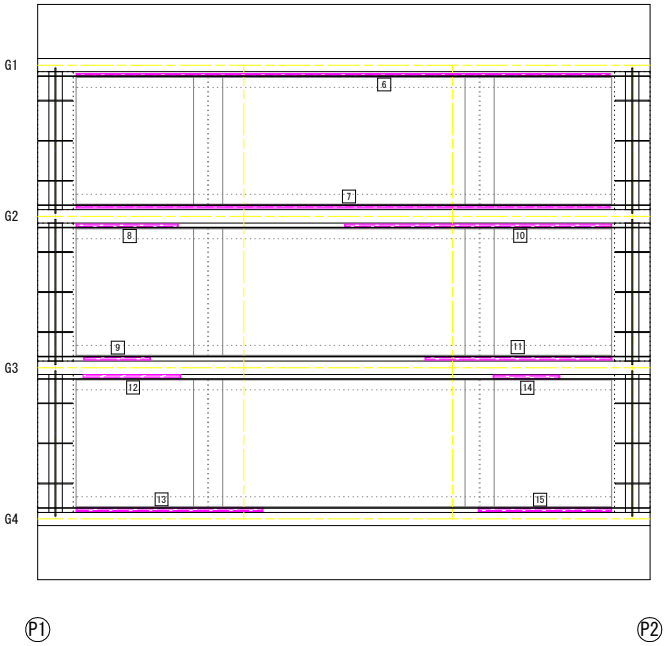
上部工

平面図

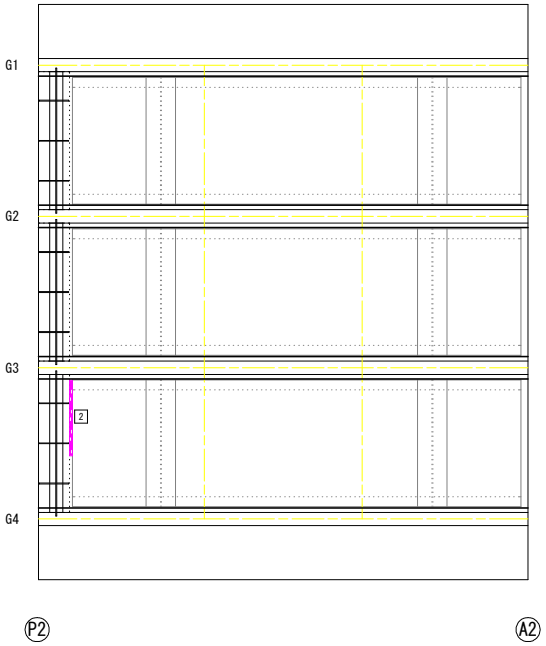
A1-P1径間



P1-P2径間



P2-A2径間



数量表

上部工(P1-P2径間)

□剥離

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
6	6000	30	0.180
7	6000	30	0.180
8	1150	40	0.046
9	750	40	0.030
10	3000	40	0.120
11	2100	40	0.084
12	1100	40	0.044
13	2100	40	0.084
14	750	40	0.030
15	1500	40	0.060
合計			0.858

数量表

上部工(P2-A2径間)

□剥離

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
2	850	40	0.034
合計			0.034

凡　例

損傷の種類	表　示	補修工法
剥離		断面修復工（左官工法）

注記）
- 床版既設鋼板周り剥離損傷の補修工法として断面修復工を計画しているが、カッター切断、はつり工が困難であると判断された場合は工事発注者と協議を行い上述の工程を省略すること。
- 地覆及び張出床版部は保護塗膜によりコンクリート表面の損傷状態を確認できていないため、下地処理（サンダーケレン等）で保護塗膜撤去後に再度損傷調査を行うこと。
- 保護塗膜撤去後に損傷が確認された場合は、工事発注者と協議を行い劣化状況に応じた補修を行うものとする。

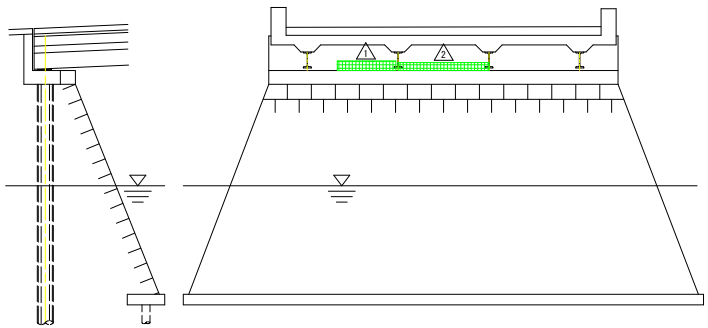
実施設計図面

工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	コンクリート部材補修図（1/4）		
縮尺	S=1:30	図面番号	4 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

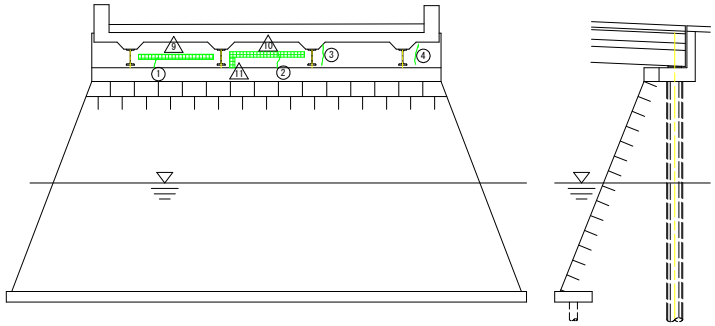
コンクリート部材補修図（2/4）S=1:50

下部工

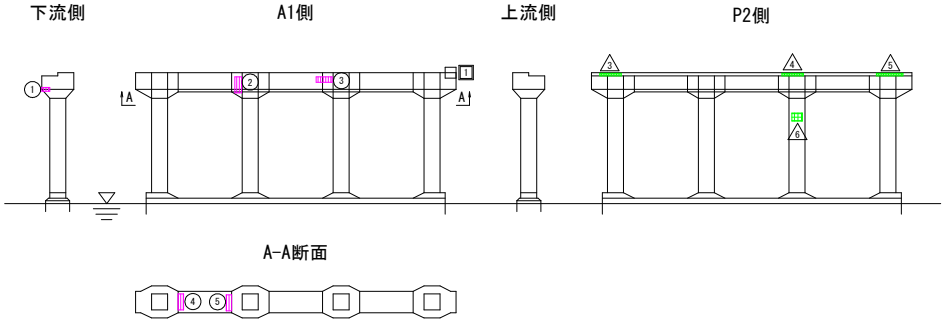
A1橋台　S=1:50



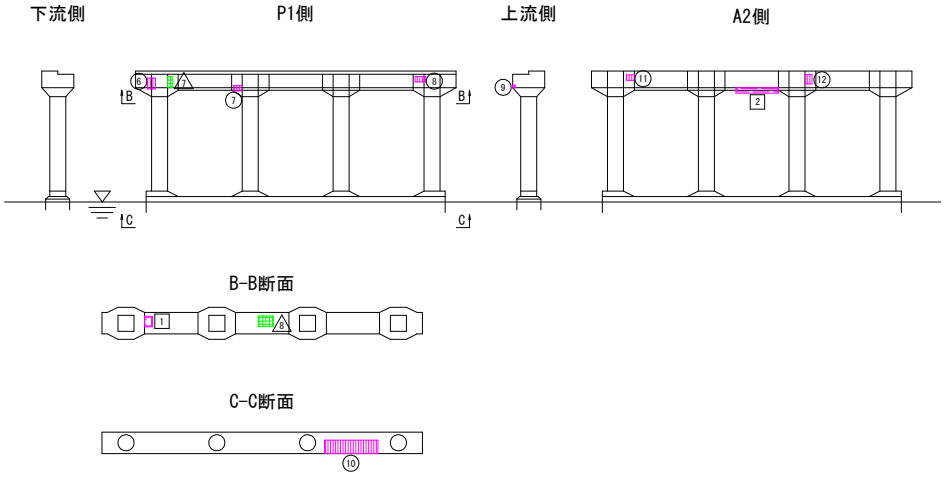
A2橋台



P1橋脚



P2橋脚



数量表

下部工(コンクリート部)

ひびわれ(W=0.2mm以上)

番号	W(mm)	L(mm)
1	0.80	200
2	0.70	300
3	0.50	400
4	0.30	400
合計		1300

剥離

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
1	200	150	0.030
2	100	800	0.080
合計			0.11

欠損

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
1	200	200	0.040
合計			0.04

うき

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
1	1100	180	0.198
2	1700	150	0.255
3	400	50	0.020
4	400	50	0.020
5	500	50	0.025
6	200	150	0.030
7	100	200	0.020
8	280	200	0.056
9	1400	100	0.140
10	1400	100	0.140
11	100	200	0.020
合計			0.92

鉄筋露出

番号	W(mm)	L(mm)	体積(m3)
1	150	70	0.011
2	300	130	0.039
3	300	100	0.030
4	300	100	0.030
5	300	100	0.030
6	150	200	0.030
7	100	150	0.015
8	200	100	0.020
9	50	50	0.003
10	250	1000	0.250
11	150	100	0.015
12	170	130	0.022
合計			0.50

凡　例

損傷の種類	表　示	補修工法
ひびわれ(幅0.2mm以上)		ひびわれ注入工（低圧注入工）
剥離		断面修復工（左官工法）
鉄筋露出		断面修復工（左官工法）
うき		断面修復工（左官工法）
欠損		断面修復工（左官工法）

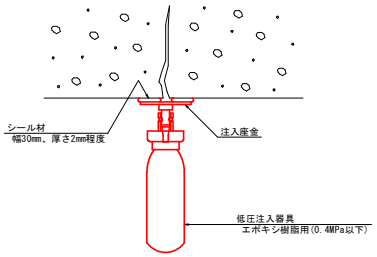
実施設計図面

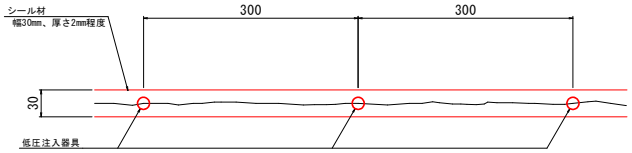
工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	コンクリート部材補修図（2/4）		
縮尺	S=1:50	図面番号	5 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

コンクリート部材補修図（4/4） S=1:3

ひび割れ注入工詳細図

○ひび割れ(W=0.2mm以上)





ひびわれ注入工（低圧注入工法）

(1構造物当り)

名称	規格	単位	数量	備考
補修延長		m	1.30	
注入材	エポキシ樹脂	kg	0.03	材料ロス率含む
シール材	エポキシ樹脂	kg	0.61	材料ロス率含む
低圧注入器具	エポキシ樹脂用(0.4MPa以下)	個	0.61	

注記）

・設計段階では材料ロス率を注入材+0.37、シール材+0.40としている。

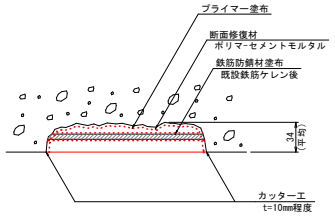
・幅0.2mm未満のひび割れは、鋼材腐食による耐久性の低下が小さいと判断できるため未補修で存置させる。

ひび割れ注入工施工フロー

ひびわれ部の清掃
⇩
注入孔の設置
⇩
シール材塗布及び注入器具取付
⇩
注入材の注入（追加注入を含む）
⇩
シール材及び注入器具撤去
⇩
仕上げ

断面修復工詳細図

□剥離、○鉄筋露出、△浮き、◘欠損



断面修復工（左官工法） (1構造物当り)

名称	規格	単位	数量	備考
補修面積	鉄筋ケレン・防錆処理を含む	m2	2.46	
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.09	材料ロス率含む

注記）

・設計段階では材料ロス率を断面修復材+0.18としている。

・はつり前にカッター工を行い、フェザーエッジの発生防止に努めること。

断面修復工施工フロー

カッター工
⇩
コンクリートはつり
⇩
鉄筋ケレン、鉄筋防錆処理
⇩
断面修復（プライマー含む）
⇩
仕上げ

数量表総括（断面修復工）

部材	数量(m2)
上部工(P1-P2径間)	0.858
上部工(P2-A2径間)	0.034
下部工(コンクリート部)	1.570
合計	2.462

上部工(P1-P2径間)

□剥離

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
6	6000	30	0.180
7	6000	30	0.180
8	1150	40	0.046
9	750	40	0.030
10	3000	40	0.120
11	2100	40	0.084
12	1100	40	0.044
13	2100	40	0.084
14	750	40	0.030
15	1500	40	0.060
小計			0.858

上部工(P2-A2径間)

□剥離

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
2	850	40	0.034
小計			0.034

下部工(コンクリート部)

□剥離

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
1	200	150	0.030
2	100	800	0.080
小計			0.11

◘欠損

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
1	200	200	0.040
小計			0.04

△うき

番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
1	1100	180	0.198
2	1700	150	0.255
3	400	50	0.020
4	400	50	0.020
5	500	50	0.025
6	200	150	0.030
7	100	200	0.020
8	280	200	0.056
9	1400	100	0.140
10	1400	100	0.140
11	100	200	0.020
小計			0.92

○鉄筋露出

番号	W(mm)	L(mm)	体積(m3)
1	150	70	0.011
2	300	130	0.039
3	300	100	0.030
4	300	100	0.030
5	300	100	0.030
6	150	200	0.030
7	100	150	0.015
8	200	100	0.020
9	50	50	0.003
10	250	1000	0.250
11	150	100	0.015
12	170	130	0.022
小計			0.50

数量表総括（ひびわれ注入工）

部材	数量(mm)
下部工(コンクリート部)	1300
合計	1300

下部工(コンクリート部)

○ひびわれ(W=0.2mm以上)

番号	W(mm)	L(mm)
1	0.80	200
2	0.70	300
3	0.50	400
4	0.30	400
小計		1300

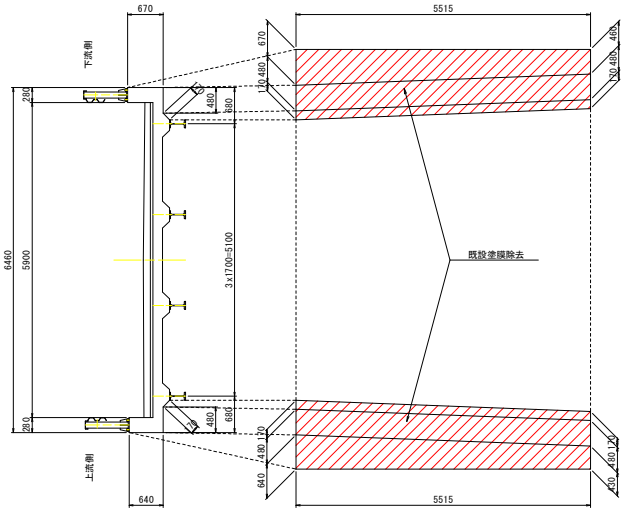
実施設計図面

工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	コンクリート部材補修図（4/4）		
縮尺	S=1:3	図面番号	6 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

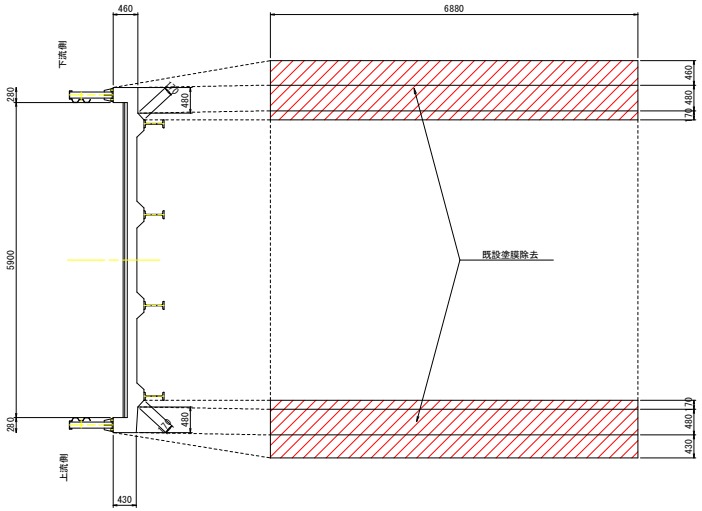
表面保護工補修図

下地処理（既設塗膜除去）範囲図 S=1:50

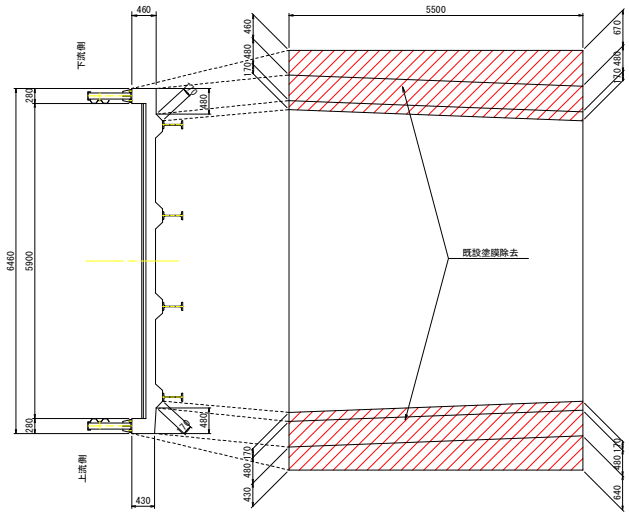
A1-P1径間



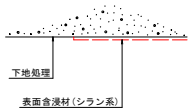
P1-P2径間



P2-A2径間



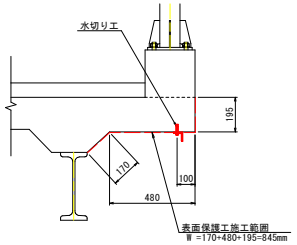
表面保護工（表面含浸工）詳細図 S=1:15



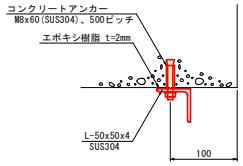
コンクリート保護工施工フロー

下地処理
⇩
素地調整
⇩
表面含浸材塗布
⇩
養生

上部工保護工範囲図

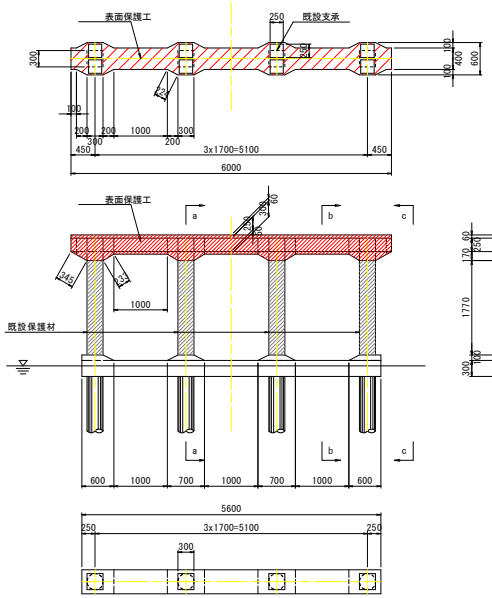


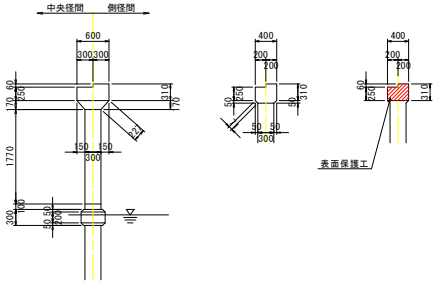
水切り工詳細図 S=1:4



1構造物当り
8-L 50x50x4x2750(SUS304、6-アンカー孔φ14)
6-L 50x50x4x2290(SUS304、5-アンカー孔φ14)
78-コンクリートアンカー M8x60(SUS304)

P1橋脚（P2橋脚）1基当り





注記）

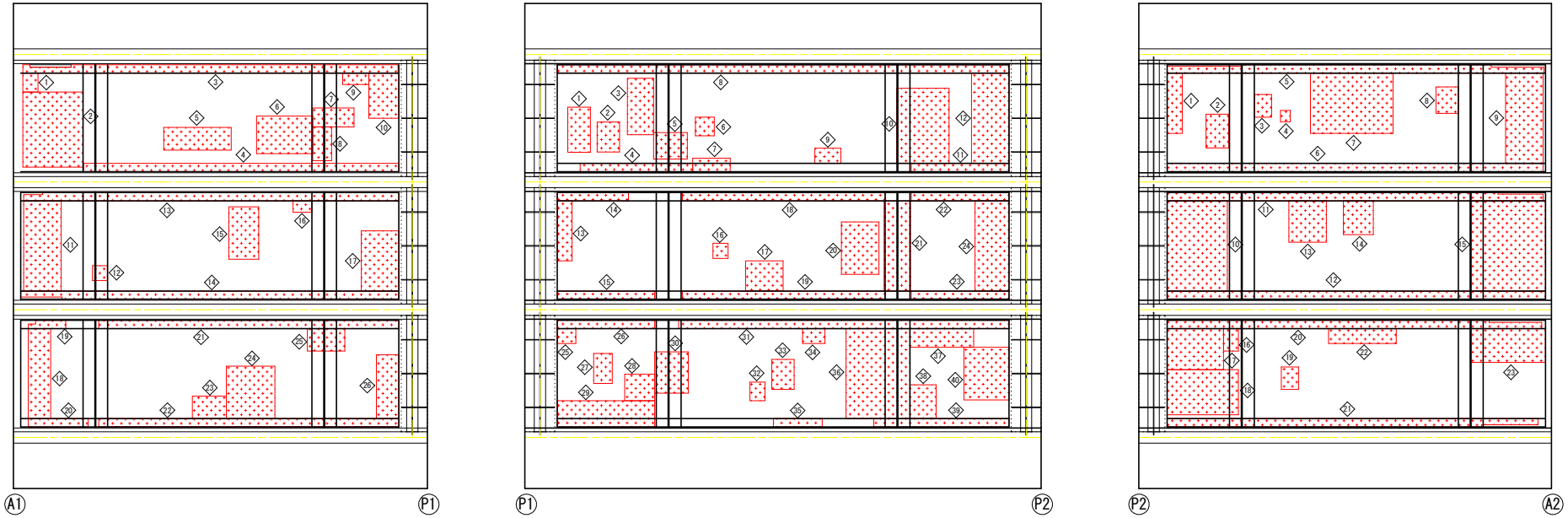
- 設計段階では供用開始後に地覆が打換えられているため、地覆側面部を表面保護工の施工範囲から除外しているが、既設保護材撤去後に表面保護工の必要性について検討を行うこと。
- 下地に残留する金属類（鉄筋、セパレーター、番線、釘等）は除去し、型枠の不陸、目違い、ピンホール、欠損等はモルタル補修材等で処理する。
- 表面含浸材の塗布量は、使用材料別に指定された数量を確実に塗布するとともに、気象条件によるロス分を考慮した規定量が塗布されていることを確認すること。
- 使用材料は、土木研究所資料第4186号「コンクリート表面保護工の施工環境と耐久性に関する研究」（平成23年1月）における、「浸透性コンクリート保護材の性能基準（暫定案）」（質量変化率）および「浸透性コンクリート保護材の性能評価試験方法（案）」（外観観察および浸透深さ）を満足するものとする。

実施設計図面

工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	表面保護工補修図		
縮尺	S=1:50	図面番号	7 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

床版補強鋼板補修図

既設補強鋼板浮き位置図 S=1:30



数量表

既設補強鋼板（浮き）

A1-P1径間

	番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
下流側	1	200	250	0.050
	2	1000	800	0.800
	3	5000	150	0.750
	4	5000	150	0.750
	5	900	300	0.270
	6	750	500	0.375
	7	550	250	0.138
	8	450	250	0.113
	9	350	150	0.053
	10	600	400	0.240
			小計	3.539
中央部	11	1200	500	0.600
	12	200	200	0.040
	13	5000	150	0.750
	14	5000	150	0.750
	15	700	400	0.280
	16	250	150	0.038
	17	800	500	0.400
			小計	2.858
上流側	18	1200	300	0.360
	19	500	150	0.075
	20	800	150	0.120
	21	4000	150	0.600
	22	4000	150	0.600
	23	450	300	0.135
	24	700	650	0.455
	25	500	300	0.150
	26	850	300	0.255
			小計	2.750
			合計	9.15

P1-P2径間

	番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
下流側	1	600	300	0.180
	2	300	400	0.120
	3	750	350	0.263
	4	1500	150	0.225
	5	450	350	0.158
	6	250	250	0.063
	7	200	500	0.100
	8	6000	150	0.900
	9	350	200	0.070
	10	1000	700	0.700
	11	1300	150	0.195
	12	1200	500	0.600
			小計	3.574
中央部	13	800	200	0.160
	14	950	150	0.143
	15	1300	150	0.195
	16	200	200	0.040
	17	500	400	0.200
	18	2700	150	0.405
	19	2700	150	0.405
	20	700	500	0.350
	21	1200	350	0.420
	22	1300	150	0.195
	23	1300	150	0.195
	24	1200	450	0.540
			小計	3.248
上流側	25	250	200	0.050
	26	1300	150	0.195
	27	400	250	0.100
	28	400	350	0.140
	29	1300	350	0.455
	30	550	450	0.248
	31	4400	150	0.660
	32	250	200	0.050
	33	400	300	0.120
	34	300	200	0.060
	35	650	150	0.098
	36	1200	850	1.020
	37	850	250	0.213
	38	450	350	0.158
	39	1800	150	0.270
	40	700	600	0.420
			小計	4.257
			合計	11.08

P2-A2径間

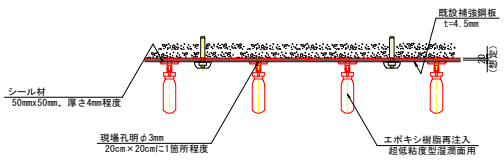
	番号	W(mm)	L(mm)	面積(m2)
下流側	1	800	200	0.160
	2	450	300	0.135
	3	300	230	0.069
	4	150	130	0.020
	5	5000	150	0.750
	6	5000	150	0.750
	7	1100	800	0.880
	8	350	300	0.105
	9	1200	500	0.600
			小計	3.469
中央部	10	1200	800	0.960
	11	5000	150	0.750
	12	5000	150	0.750
	13	550	500	0.275
	14	450	400	0.180
	15	1200	1000	1.200
			小計	4.115
上流側	16	300	200	0.060
	17	750	550	0.413
	18	950	600	0.570
	19	300	230	0.069
	20	5000	150	0.750
	21	5000	150	0.750
	22	900	200	0.180
	23	1000	450	0.450
			小計	3.242
			合計	10.83

数量表総括（鋼板再注入工）

部材	数量(m2)
A1-P1径間	9.15
P1-P2径間	11.08
P2-A2径間	10.83
合計	31.06

鋼板再注入工詳細図

既設補強鋼板部



鋼板再注入工フロー

打音調査・マーキング
⇩
現場孔明工　※鋼板のうち1箇所につき、最低2箇所は孔明すること。
⇩
シール工
⇩
注入工
⇩
仕上げ工
⇩
既設鋼板部の塗装

鋼板再注入工

（1構造物当り）

名称	規格	単位	数量	備考
補修面積		m2	31.06	
現場孔明	φ3mm、25本/m2	本	805	
注入材	エポキシ樹脂（超低粘度型湿潤面用）	kg	82.83	材料ロス率含む
シール材	エポキシ樹脂	kg	16.15	材料ロス率含む

注記）
・設計段階では材料ロス率を注入材+0.18、シール材+0.18としている。

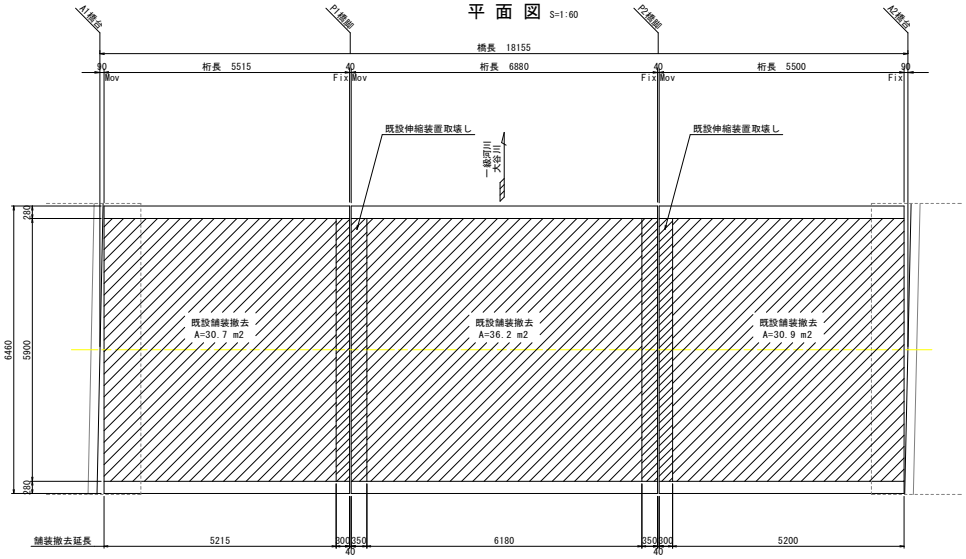
実施設計図面

工事名	R７徳土　徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸　橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	床版補強鋼板補修図		
縮尺	S=1:30	図面番号	8 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		

橋面防水工詳細図

既設構造物撤去図

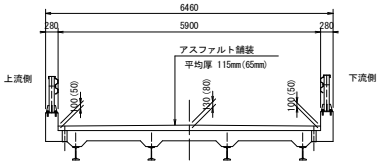
平 面 図 S=1:60



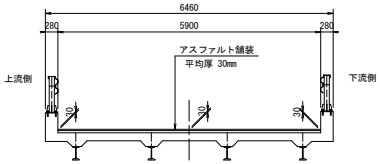
断 面 図 S=1:60

A1-P1、P2-A2

※( )内寸法は橋脚側を示す。



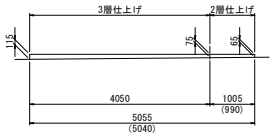
P1-P2



舗装仕上げ寸法図 S=1:60

A1-P1、P2-A2

※( )内寸法は、P2-A2径間を示す。

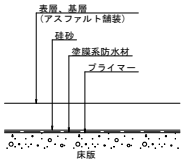


舗装厚一覧表

径 間	舗装厚(mm)			備 考
	起点側	終点側	平 均	
A1-P1	115	65	90	舗装厚 50～130mm
P1-P2	30	30	30	舗装厚 30mm
P2-A2	65	115	90	舗装厚 50～130mm

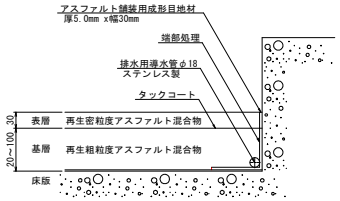
橋面防水工詳細図 S=1:5

防水層構成例

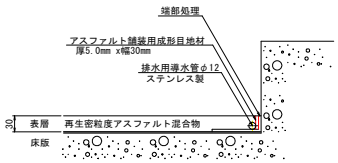


端部防水処理詳細図

A1-P1、P2-A2

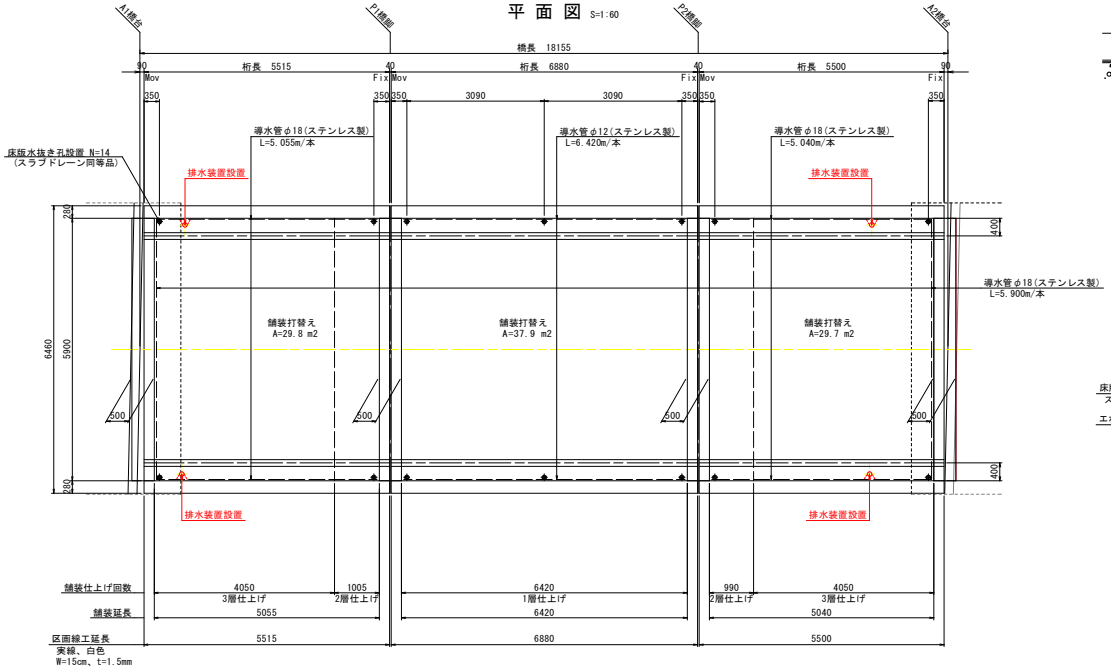


P1-P2



橋面補修計画図

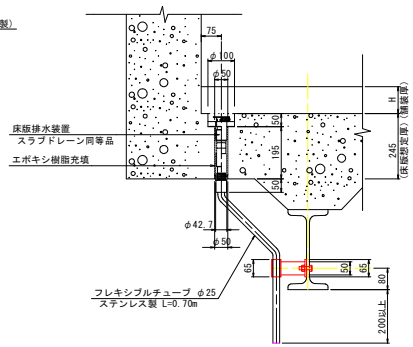
平 面 図 S=1:60



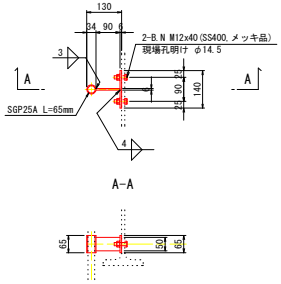
床版水抜き孔詳細図 S=1:10

床版排水装置

設置基数 全14箇所



支持金具



支持金具1基当り(製作基数 14基)

1 - PL 65x6x140(SM400)

1 - PL 50x6x 90(SM400)

1 - SGP 25Ax 65

2 - B.N M12x 40(SS400、1-W付、メッキ品)

注記)

- 施工に際しては、現地実測のこと。
- 排水装置の詳細については、「排水装置設置工」を参照すること。
- 鋼材の防錆は、溶融亜鉛めっき(JISH8641 HDZ55相当)とする。
  但し、アンカーボルト・ナットは、(JISH8641 HDZ35相当)とする。
- 床版のコア削孔前に鉄筋探査等により既設配筋を確認し、既設鉄筋を避けた削孔位置とすること。
- 支持金具の形状は現地確認後に最終決定すること。

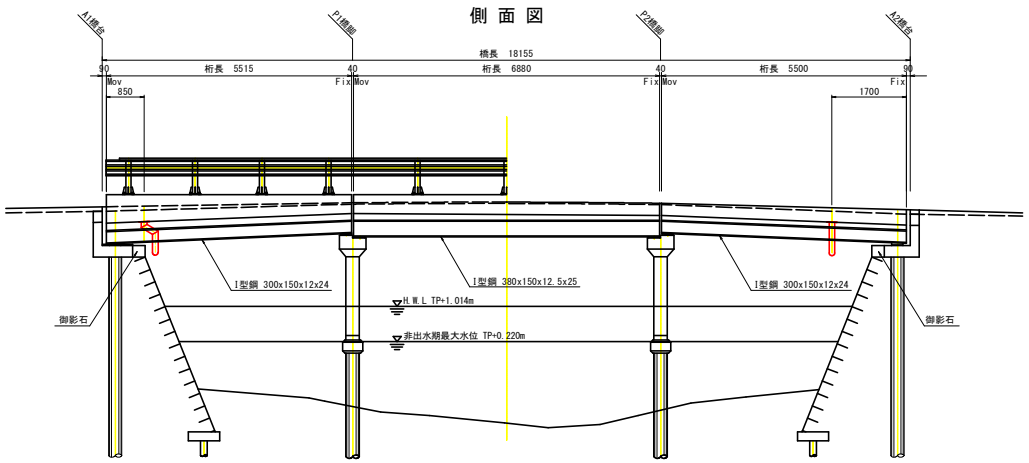
実施設計図面

工事名	R7徳土 徳島鳴門線 (明治橋) 鳴・大麻牛屋島～大津大幸 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸 (明治橋)		
図面名	橋面防水工詳細図		
縮尺	図 示	図面番号	9 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局 (徳島庁舎)		

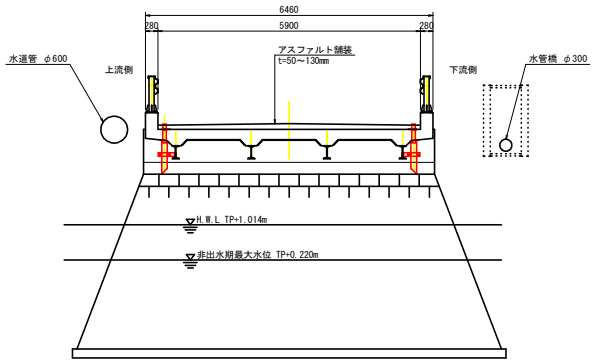
排水装置設置工詳細図

設置位置図 S=1:60

側 面 図

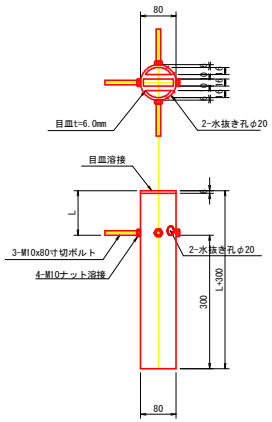


断 面 図



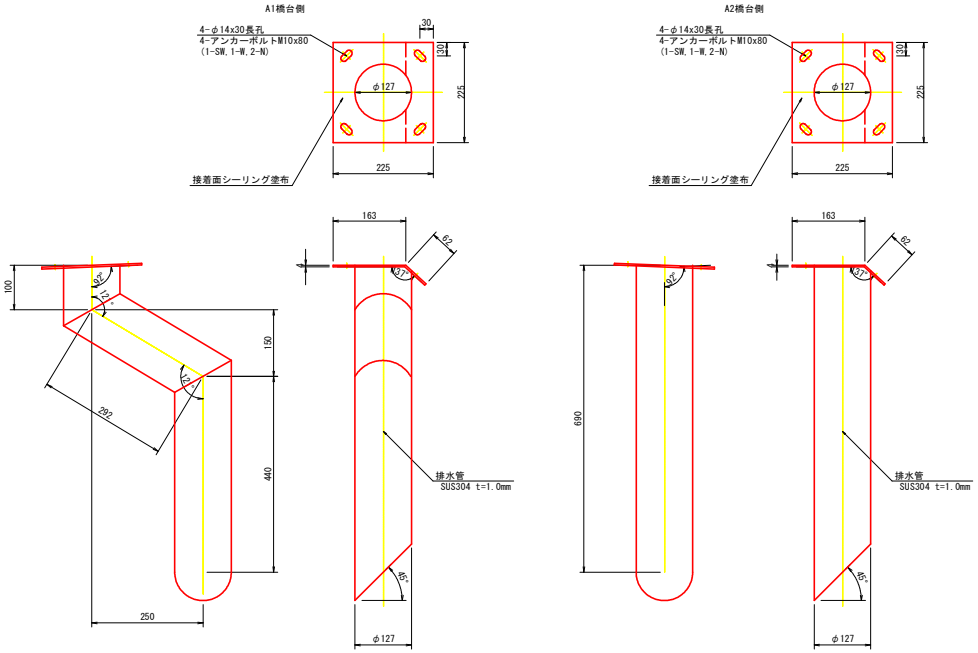
排水装置詳細図 S=1:6

排水桝詳細図

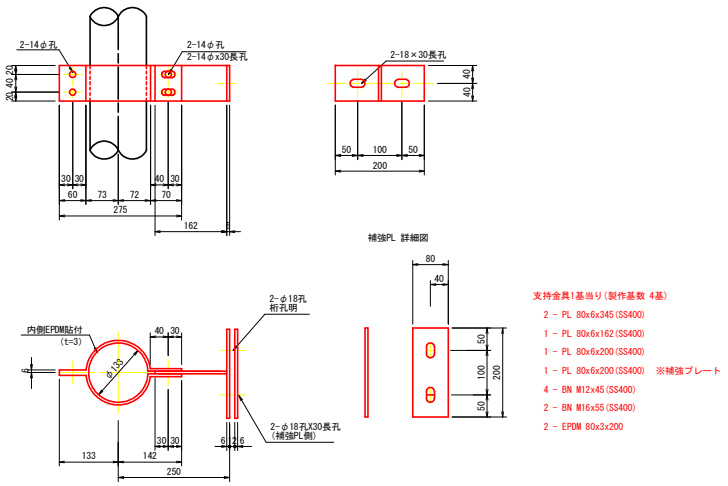


※本図ではL=100mmと想定しているが、排水桝延長については現地実測のうえ決定すること。

排水管詳細図



支持金具詳細図



支持金具1基当り(製作基数 4基)

- 2 - PL 80x6x345(SS400)
- 1 - PL 80x6x162(SS400)
- 1 - PL 80x6x200(SS400)
- 1 - PL 80x6x200(SS400) ※補強プレート
- 4 - BN M12x45(SS400)
- 2 - BN M16x55(SS400)
- 2 - EPDM 80x3x200

注記)

- 特記なき材質はすべてSUS304とする。
- 部材寸法については現地実測のうえ決定すること。
- SS400は全て溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641 2種 HDZ55) 仕上げを行う。
  但し、ボルト類はHDZ35とする。

実施設計図面

工事名	R7徳土 徳島鳴門線（明治橋） 鳴・大麻牛屋島～大津大幸 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島鳴門線		
工事箇所	鳴門市大麻町牛屋島～大津町大幸（明治橋）		
図面名	排水装置設置工詳細図		
縮尺	図 示	図面番号	10 / 10
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局（徳島庁舎）		